

マニフェスト市政の暴走ストップ！

960人に及ぶ非正規雇用労働者への解雇通告を行ったいすゞ自動車藤沢工場。

しかし、この直面する緊急の課題がありながら、藤沢市議会に海老根市長が提案した「緊急経済対策」は旧態依然とした土木関係の公共事業前倒しが中心で、その中身だけでなく、議会に諮る前からマスコミ・市の広報までが議決を前提とした報道を先行させるなど議会無視の手法に至るまで様々な問題が浮き彫りとなった。

また、定額給付金や雇用問題で一般質問を行った原田トモコ市議の質問には終始市長本人は答弁を拒み、副市長に対応を丸投げ。しかも、それを容認し続ける議長。

就任一年になるうとする市長の政治姿勢、とりわけ「マニフェスト」至上主義で硬直する役所内の風潮、市長選挙で自身を応援した市議（議長もその一人）に偏重した議会対応、情勢の急激な変化に後手となり相次ぐ不祥事の発覚など、市民にとっては市長の市政運営に不安を覚えざるを得ない12月市議会となった。



▼「トップマネージメント」不在→後手に回るいすゞ解雇問題。

原田 いすゞについて、解雇されることを前提に考えるのはおかしい。企業に責任を問いい、その上で公的支援を考えるべき。どうすれば解雇しなくて済むか、解雇撤回を申し入れるべきで、トップ同士が話し合えるなら国がまとめた雇用政策よりよっぽど活きた施策が講じられ、そうした緊急対策ならば、議会へも即決できる説得力を持つ中身になるのではないかと。また、そうした具体策を持って国に進言されたいかがか？

昨日、大分県杵築市ではキャノンの非正規社員が解雇されることを受けて、失業者を市の臨時職員として雇用し、家賃の一部も助成するとニュースになっていた。早速、杵築市に電話で聞いたら、「国の政策が発動されるまで、何か手助けは出来ないか、街の印象を良くするためにはと考え、大したことはないのにこれほど報道されるなんて...」と恐縮していた。今はこういうことが大ニュースになるほど世間は注目しているのであり、藤沢も自覚しなくてはならない。本当に必要な雇用維持対策を市長が最前線で提案すべきではないのか？

担当部長 解雇撤回等を要請する立場には無いと考える。しかし、健康保険の消失に伴う年末手続き、ハローワーク藤沢としての工場内での再就職支援等、いすゞ、関係機関が連携して対応を図る。また、これらは市長を先頭に、関係団体・市が一丸として実施している「藤沢市緊急経済対策」である。

原田 求められている「（市長の好きな言葉）トップマネージメント」の一つは、定額給付金の白紙撤回を求め、いすゞを擁する藤沢ならではの市独自の雇用経済対策を全国に先駆け発信し国に迫ることではないか？

しかし、現実には、緊急経済対策と謳いながら十分な実態調査もないままの政策化や、拙速な議事を無視した担当者に丸投げするような、まるで麻生首相と同じような無責任ぶり。（副市長の給料自主返納はじめ担当職員の処分は示されたが）市長からの説明は全く無かった。今朝、真野議員と宮戸議員、3人で市長には申し入れをしたが、市長自身の言葉で謝罪もしくは釈明をされるのか？市長に答弁を求める。

副市長 議会無視といった手続き上の問題だが、議会に対する事務執行に適正を欠いた行為であり、服務規律違反については私が責任を負っているのご理解を。

原田 市長の答弁を！（議長 無視して終了） - 12/17本会議原田トモコ一般質問要旨より

▼100歳でも保険料滞納で助成も感謝もナシ！？福寿医療費助成条例の疑問

原田 この制度の趣旨は「経済的負担軽減を目的としたものではなく、あくまでも百歳以上の方々に敬意、感謝の気持ちを表すこと。」との事だが、病気になるないと感謝の気持ちが見せないのは、やはりお祝いとしてはそぐわない制度。

しかも、後期高齢者医療制度の対象者への負担緩和というわけでもなく、保険料を滞納されている方は、百歳以上でも対象外になる仕組みである。

（市長を選挙で応援した議員の提案という形を取ったからか）議会全体に諮ることよりも広報、新聞発表が先行する市長のパフォーマンスの結果なのか、対象者の居住状況や身体的状況の現状把握もしないまま、新規事業を展開することは市の姿勢として大問題である。

お祝いの気持ちなら、百歳のお祝いに市長が直接お会いになるので、お話を聞いてニーズにあったお祝いにすべきで、この条例には反対。（12/9総務委員会・原田討論）

【反対】市政市民、アクティブ藤沢（原田トモコ）

【賛成】かわせみ会、さつき会、ふじさわ自民、公明、共産、湘光クラブ

▼武田薬品研究所の建設計画見直しと条例制定を求める請願不採択

同施設は放射性物質、化学物質、生物による公害発生源となる環境リスクを伴う施設だが、県の環境アセスでは、とりわけ、病原体等が漏出して直ぐには検出困難、条件が整えば増殖する等のバイオハザードの特性に対する予測評価が明確にされていない。

よって、企業側から率先して、これらの特性に応じた研究業務に伴う危険物漏洩・拡散の周辺への影響予測評価が行われなければならないが、武田薬品側から実験などに伴う排水、排気中や廃棄物に含まれる病原体等の種類、総量などは明らかにされず、有害物質の除去設備等の性能、大気に排出されるまでのフロー、公共下水に排水されるまでのフローも全く不明。

今の法的規制や県の「バイオテクノロジー環境安全管理指針」にはこれらを公開対象とする強制力はないので、県、もしくは本市が、改めて指針を設けたり、条例を制定することを通して公害の未然防止に努める事は、他の既存研究施設へのフォローや今後の様々な企業誘致などを想定しても、求められる時代の要請である。

請願ははじめ住民・市民からの声により、県の要請を受ける形で当該企業側が一定の説明の場を設けるに至った経緯は尊重されるべきであり、継続的に市民への説明責任、安全情報の共有とリスクコミュニケーションがはかれるべき。（12/12本会議・原田討論要旨）

【賛成】共産、市政市民、アクティブ藤沢（原田トモコ）

【反対】かわせみ会、自民、さつき会、公明、湘光クラブ

▼会派分裂騒動の正体 - 議案、請願等への対応で試されたのは誰か。

12月1日、最大会派が分裂して市議会が新しい会派構成になった。

進政会（12人）から保守系無所属4人が脱退、社・民ネット（5人）に合流して「かわせみ会」（9人）が最大会派に。残った自民党公認・推薦組を中心に「ふじさわ自民党」（8人）が発足。

市長の提出する議案や、市民からの陳情・請願等への対応でいずれ正体が知れるものと見ていたが、案の定、いくつかの場面でその一端が現れた。

まずは『「定額給付金」を白紙撤回するよう国に意見書提出を求める請願』を巡って、提出した私とすれば当然、国会で野党の立場となる方々からは賛同を頂けると考えていただけに残念ではあるが、委員会でも本会議でも討論も無しに否決に回った「かわせみ会」、「さつき会」が会派内の融和を優先させた事は一目瞭然であった。

また、先の市長選挙で海老根市長を応援し自身の一般質問で「百歳以上の高齢者に医療費助成を」と訴えたかと思えば市長がそれに即応するデキレースを演じた某自民党系市議。

その彼が主導したと言われる分裂騒動に相当なシコリを残して飛び出したベテラン保守系議員らを迎えた「かわせみ会」でありながら、経緯も含めて問題点の多いその「福寿医療費助成制度」にあっさり賛成するあたり、「ふじさわ自民党」との違いをどのレベルで体現していくつもりなのか首を傾げざるを得なかった。

やはり、与党でいたいという立場が何に対しても勝るのか、分裂騒動が単なる私怨の域に留まり、市長、市当局への与党都合を競うようであっては困るのだ。

とは言え、この機に主導性を発揮できない野党系議員らの存在が何よりも情けないと映るのは私だけか。そんな非力な議会を見て取ったのか市長のスタンドプレーが目立ち始めた12月議会であった。（原田タケル）